

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年12月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873200422		
法人名	聖北会 有限会社 敬七商事		
事業所名	グループホーム すずらの里	ユニット名	うぐいす1丁目
所在地	〒319-0204 茨城県笠間市土師1283-252		
自己評価作成日	平成24年7月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年12月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873200422-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年9月19日	評価確定日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当施設は自然に囲まれ静かな環境の中立地しております。特養ホーム、ケアハウスも隣接しております。</p> <p>利用者様は市内の方が殆どの為、家庭的な雰囲気の中共通の話題ですぐに仲良くなられ楽しく過ごされております。</p> <p>食事は管理栄養士の立てた献立を毎食手造りしております。入浴は毎日行っているのが好きな時に入浴することが出来ます。</p> <p>健康管理については、母体の病院との連携、看護師による週4回の訪問があり安心です。</p> <p>このような環境の中、利用者様ご家族様との信頼関係を築きながら安心して老後を過ごして頂けるよう職員一同努めております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と職員は理念に基づき利用者本位の支援をし、入浴は利用者の好きな時間を選択してもらい、毎日でも入浴ができるように支援している。</p> <p>職員は利用者が日中はおむつを使用せず布パンツで過ごし、トイレで排泄ができるように支援するとともに、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p> <p>事業所は東日本大震災後地区の自主防災組織に入り、災害時には市から食糧の提供を受けたり、中学校の井戸水を利用できるほか、事業所では地域の一人暮らしの高齢者を受け入れることとしている。</p> <p>他にも地域のスーパーから食糧や米の提供を受けたり、ガソリンスタンドと提携してガソリンを確保するなど、災害時には地域や行政と連携して対応ができるよう取り組んでいる。</p> <p>法人系列に医療機関があるため利用者や家族等の安心につながっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に張り出したり、ミーティング時や申し送り時になどに唱和している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。 理念を玄関と各ユニットに掲示し、管理者と職員は朝の申し送り時に各自確認するとともに、管理者は常に職員が理念を共有して実践しているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の区長、民生委員さんと災害時のお互いの連携、協力を取り決めている。推進会議出席際の地区委員の方を通じて情報交換を行っている。	利用者は隣接している同一法人の特別養護老人ホームで行う納涼祭に参加し、地域住民と交流している。 管理者は地域の人々との交流を模索中であるが、近隣に住宅が無いため事業所の行事に地域の人々の参加を得たり、利用者が地域の行事に参加するまでには至っていない。	運営推進会議等で委員の協力が得られるよう働きかけ、利用者が地域の人々と交流が深められるよう取り組むことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くに民家がないこともあり特に付き合いはないが推進会議で地区代表の方や区長さんを通じ情報の発信をしている。最近では市報の配布を受けているので情報を活かして行きたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価を報告し意見やアドバイスをもらったりしサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民、消防団副団長でもある看護師の参加を得て開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況、行事の説明をするとともに、看取り介護の対応指針を検討していることを報告している。 「市と地域は事業所に対して何ができるのか」や「事業所は地域に対して何ができるのか」、「地域全体の防災について」などを検討し、協力体制を築いている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括連携会議が発足したり市からの困難事例の利用者さんをに受け入れを通じ協力関係が築かれている。市の方からも研修などの呼びかけをしてくださっている。	管理者は市担当者に電話や運営推進会議の機会を通して、運営に関する不明点や利用者の支援に関することを相談して助言を得たり情報交換をしているほか、日常的に連絡を取り合い、協力関係を築いている。 管理者や職員は市が主催する感染症や接遇、終末期ケアに関する研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止の意義を職員は理解しており拘束のないケアを行っている	身体拘束排除に関するマニュアルを作成するとともに、職員は年1回身体拘束排除に向けた内部研修や外部研修を受講し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、家族等への説明書や同意書などの書類を整備している。 玄関を施錠していたが、ユニット毎に月2回解錠するテストを実施して利用者の安全が確認できたため、今後は職員の見守りのもと日中は玄関を施錠しないことを決定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の資料を活用し虐待防止の啓発を行い何が虐待に当るのか職員は周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修に参加している。後見人の必要性がある家族の支援を行ったり、家族のない利用者さんと社協との関係を繋いでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に館内の見学を勧めたり家族の契約後の関わりなどについてよく説明し不安なことがないか傾聴して納得できてから契約の締結をし頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを各家族に送り回答の結果を全体ミーティングで話し合ったり推進会議時に出している。	重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 家族等からは来訪時や運営推進会議で要望を聴いているほかアンケートを実施しているが、家族等の意見等を汲みあげるまでには至っていない。	毎月家族に発送する「グループホームすずらの里だより」に意見や要望欄を設け、家族等から意見等が出易いような工夫をすることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の内部研修時には代表者の出席を求め意見要望を伝えたり管理者は職員の意見要望を代表者に伝え反映できるよう努めている。	管理者は月1回の職員会議のほか、休憩時間を利用して職員と個別に話す機会を設け、運営に関する意見や提案を聞くよう努めている。 管理者は職員が気軽に意見等が出せるような関係づくりに努めており、「浴室への手すりの追加」や「週2日休み」、「昼休みの確保」など、職員から出た意見等を代表者に伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系の見直しや休憩時間の取得等条件の整備に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合った研修を勧めている。特養、病院からの声掛けには積極的に参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	リーダー研修の施設見学を提供しており意見交換の機会を持っている。又地域包括連携会議も発足したので他施設との関わりを持つことが出来るようになっていくと思われる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に以前の情報を集めたり、生活の様子を家族に聞いたりして困っていることや心配事などを知るようにし不安を持たないように気配りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で話を聞いて不安や心配等が払拭できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で困ることがあれば代表者や市のほうに相談し解決の方法を探している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることや得意なことを知るようにして一緒に仕事をしたり、歌を歌ったりして家族のような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の介護力では支援が難しい時には家族に電話で声を聞かせてもらったり面会をお願いしたりして本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢のため馴染みの人や場との関係は疎遠になっているように見受けられ電話や訪問もないようです。	利用者の家族等や親戚、友人が来訪している。 職員は利用者と来訪者がゆっくり話せるように居室へ案内し、来訪者に再来訪を促している。 利用者が馴染みの美容室を利用できるように職員が付き添い支援をしている。 笠間稲荷に初詣に出かけたり、季節毎に馴染みの場所へ花見に行けるよう支援するなど、職員は利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から日中の時間の過ごし方や活動など観察し孤立している利用者が出ないように注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を経て退所となった元利用者さんの様子は気になり病院来院時は様子を見に行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に個人票に記入して頂いたものを中心に少しずつ本人との会話の中で思いを知るよう努めている。	職員は利用者にさり気なく話しかけて思いや意向の把握に努め、利用者の希望にそった支援ができるよう努めている。 意向の把握が困難な利用者の場合は、家族等から話を聞いたり利用者の日頃の様子を職員で話し合い、利用者本位に検討している。 職員が日々のケアで把握した利用者の好きな歌や事柄、生活歴の情報などを記録に残すまでには至っていない。	職員が日々のケアで把握した利用者の情報を個人毎に記録し、全職員で共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、以前のサービス利用時のところからの情報を収集しこれまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時より話を聞いたり過ごし方の様子を見て力量の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所契約時に、家族、本人に暮らし方の意向を聞いたものを元に職員とケアマネで話し合い計画を作成している。	管理者や職員は毎月カンファレンスを行い、利用者や家族等の意見等を反映させた介護計画を作成している。 計画作成担当者は日々の記録から利用者の支援経過を把握し、3ヶ月毎に評価を行って介護計画を見直している。 心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直すとともに家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録簿に24時間の活動状況や様子等記録し情報の共有やモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅の延長としてかかりつけの病院受診や、希望があれば買い物、税金の納付、介護保険の申請等諸々支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の行事は家族に変わって市の方と連携を取り記念品贈呈を行ったりしてお祝いをしている。又、市の援助を受けた自主防災組織に入れてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族と話し合いかかりつけ医の選択が出来ることを説明している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 協力医療機関とそれ以外のかかりつけ医への受診も職員が付き添い支援をしている。 受診結果はその都度家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による健康管理を行っているが、看護師の見極めによる協力病院への早期の受診で安心して過ごすことが出来る。時により受診の同行も行うことがある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師、MSW等と情報交換を行って退院の時期や見通しなどを知ることが出来る。また、同グループ間の他施設連絡会議が発足し情報交換ができるようになった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族から意向を聞いている。又、他施設での看取り状況例など聞いたり訪問看護師医師等に相談したりして少しずつ取り組みが始まっている。内部研修もスタートし職員の意識も高まっている。	協力医療機関の医師の協力を得ながら、医療行為が発生しない利用者の看取り介護を実施する方向で「重度化した場合における対応に関する同意書」を見直しているところで、現在は利用者や家族等の同意を得ていない。 今年度に入ってから、管理者と職員で看取り介護の研修を3回実施している。 看取りを開始する場合は、家族等を含め5人から6人で「ターミナル委員会」を発足することとし、週1回の開催を予定している。	「重度化した場合における対応に関する同意書」が決定次第、利用者と家族等に説明して同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修時に夜間の急変時対応の見直しを行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡網の整備や、推進会議を通して地域との連携を図ろうとしている。災害時には地区の自主防災組織の仲間入りをしておりお互い出来ることを行うこととなっている。	消防署立会いのもと隣接する同一法人の特別養護老人ホームと合同で通報訓練や消火訓練、避難訓練等の総合訓練を年2回実施し、内1回は夜間を想定した訓練としている。 近隣に住宅が無いため、災害時には隣接する同一法人の特別養護老人ホームと連携を図ることとしている。 訓練の実施記録を作成し、職員会議で反省点と課題を話し合っって記録に残している。 事業所は地域の自主防災組織に参加しており、災害時には市から食糧の提供を受けたり、中学校の井戸水を利用できるほか、事業所では地域の一人暮らしの高齢者を受け入れることとしている。 災害時に備えユニット毎に乾パンや飲料水、懐中電灯、カセットコンロ、紙おむつ、割り箸などを備蓄するとともに、収納庫の扉に品名と数量を記載した明細を貼り管理している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	折に触れ、人生の先輩であることを意識し、排泄の失敗や言葉遣いなどで利用者さんを傷つけないような対応の仕方を職員には話している。	管理者や職員は利用者の呼び方や言葉遣いに気を配るとともに、大きな声で話しかけないなどで人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚で保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見が言い易いよう声掛けの工夫をし、できる限り本人の思いがかなうようにして支援している。(なじみの言葉などで言い出しやすいように)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はその日のアクティビティ等提案はするが、無理強いせず本人の一日のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴用意や着替えが必要なときには意思表示の出来ない利用者さんには季節に合ったものや、似合いそうなものを選ぶようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態や、咀嚼能力に合わせた食事の形態にしたりして出来る限り口からの食事で栄養摂取が出来るように支援している。ペースの遅い利用者さんには少しはやめに提供しあわてることのないようにしている。出来る能力に応じ食器などの下膳や台拭き、じゃがいもの皮むきなどされている	宅配業者の献立に合わせた食材が届き、ユニット毎に職員が調理するとともに、利用者の状態に合わせて刻み食などを提供している。職員と利用者は一緒に食事をし、利用者はできる範囲で下膳やテーブル拭きなどを行っている。行事にちなんだ献立や利用者の希望にそった外食、弁当持参の花見など、食事が楽しみとなるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は1日を通しチェックし体調管理を行っている。摂取不足が見られるときは看護師医師などに相談し解決に向けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じ口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り日中はトイレでの排泄を心がけている。夜間も本人の能力に応じオムツに移行しない様に心がけている。おむつの研修に積極的に参加し学習している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって早めに声をかけたり、利用者の様子からトイレ誘導をしてトイレで排泄ができるように支援している。日中は紙パンツを使用しないケアに取り組んでおり、入居時に紙パンツを利用していた利用者が布パンツ使用になるなど、職員はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活かした便秘予防を行い、個人の実情に応じた工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日でも出来るようになってきている。個人個人の希望を元に行っている。	利用者の体調が悪い時以外は、利用者一人ひとりの希望にそって毎日入浴ができるよう支援をしている。 入浴を拒む利用者には時間をずらして声をかけたり、声をかける職員を替えて利用者の興味のある話で入浴に誘うなど、無理のないよう促している。 入浴剤を入れたり柚子湯や菖蒲湯で季節を感じながら入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息は習慣になっている方には布団を直し誘導したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作り変更や副作用などを理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い、塗り絵、書道、カラオケ等本人の能力や希望に合わせて日々過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行能力の低下等外出支援は困難となっているが、お花見は出かけている。園庭での散歩やお茶の時間のおしゃべり等出来る範囲で支援している。	利用者は天気の良い日は敷地内を散歩したり、庭のベンチで外気浴を楽しんでいる。職員は利用者の体調に配慮しながら、ドライブに出かけられるよう支援している。職員は利用者の希望を家族等に伝え、家族等の協力を得て外食や買い物に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん自身がお金を使う機会はなくなりつつあるが、試みで乳製品の訪問販売の受け入れを始めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを家族に出したり電話の取次ぎの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝、障子を開けて外の景色の変化による季節感を感じたりできるようにしたり、温度は利用者さんに合わせ寒すぎないように注意している。トイレはこまめに掃除しににおいに気をつけている。	玄関に小さな応接セットを置いたり季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。共用空間はエアコンにより温度管理をしたり、居間兼食堂やトイレ、風呂は清潔に保たれ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。事業所の周辺には森があり、居間からの眺めは四季を感じる事ができる。廊下から庭で飼っている犬を見ることができ、利用者の楽しみとなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテーブルのほかにソファや和室等用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には布団か、ベッドを選んでいただきなじみのものを家族にお願いしている。	居室は畳敷きとなっているが、利用者は生活スタイルに合わせてベッドを持ち込んだり、使い慣れた寝具や家具などを持ち込んでいる。 利用者の手作りの作品や家族の写真を飾ったり、時計やカレンダーを掛けて生活感のある居室となっており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの看板や、手すり、居室の目印など付けて分かりやすくしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input checked="" type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホームすずらんの里

作成日 平成24年12月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	近隣に住宅がない為地域との関わりが少なく、地域との交流を深めていくにはどのようにするか。	地域の中に溶け込んでいけるよう働きかける。	地域運営推進会議を活用し情報受信し草刈や缶拾いなどの奉仕作業に参加する。近所のお祭りに参加する、ホームで行事がある時は近隣に声掛けを行う等に努める。	6ヶ月
2	6	安全面に配慮しながら玄関の鍵をかけずに利用者が自由に出入りが出来るようにしていく	日中は出入りが自由出来るようにする	月2回行っている開放を安全面に配慮しながら毎日出来るようにしていく。内部研修に於いて身体拘束についての勉強を行った。	6ヶ月
3	10	意見や苦情を出しにくい家族等に配慮し、無記名のアンケートを実施するとともに結果を家族等に報告する。	苦情や意見を出し易い雰囲気と環境を作る	定期的にお便りを出し無記名でアンケートに答えて頂くようにする。結果はお便りで報告する。	6ヶ月
4	33	重度化や週末期について事業者が出来る最大の支援を利用者や家族等に説明すると共に関係者で話し合い方針の共有化を図るほか意思確認書やマニュアルを作成する。	家族とのコミュニケーションを図りながら看取りを行うことが出来る。	看取り委員会を結成し勉強会を行ったり内部研修で見取りに付いての研修を行った。家族に看取り指針と意向書をお送りし現時点での意向を、返送をしていただいた。今後も研修を行っていく。	6ヶ月
5	35	近隣に住宅がないので隣接の同法人からの応援を受けられる体制を築く。	災害時に速やかな対応が出来るようにする	避難訓練を繰り返し行う。明らかになった課題を全体ミーティングで話し合い記録に残す。同一法人への避難訓練への参加ををはたらきかける	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。